日本の小論文と中国の議論文における論拠の特徴

前川 孝子

1. はじめに

本稿では日本の「小論文」と中国の「議論文」を資料とし、それぞれの作文でどのような論述の方法が一般的であるのかを考察する。前者は学習指導要領、後者は学習指導要領に相当する中国教育部制定の「課程標準」に定められ、それぞれの教科書にも掲載されている文章である。また、大学入学試験での意見を論述する課題作文という点でも共通している。

Kaplan (1966) は、第二言語教育における学習者の文化的な多様性は文章構成に及び、広い意味での論理にも及んでいるという。渡辺 (2004) は、叙述表現の順番や叙述の仕方がどのようなものであれば当該社会で納得されるかを日米の小学生の作文調査により比較している。これらの先行研究では、作文とは単に文法的に正しい文章が書けることを目的とするのではなく、適切とされる表現や構成の習得を通じ、特定の見方や考え方を身につけるものであることが示されている。

本稿では以上の認識をふまえ、論拠という観点から小論文と議論文の特徴を明らかにすることを目的とする。論拠とは「論が成り立つ根拠のこと」(文部科学省2010:21)である¹⁾。本稿では、作文の中で、筆者自身が自らの意見が成り立つ理由を説明している箇所を「論拠」とす

る。本稿で論拠に注目するのは、意見を 支えるためにどのような論拠を用いるの かということがものの見方や文章構成の 基本にあると考えるからである。

2. 「小論文」と「議論文」の概要

日本の小論文とは「話題として取り上げることがらに対する筆者の考えを論理的に説明して、その正当性、妥当性を論証し、読者に同意を求める」論説文のうち、「教育上、課される数百字から千数百字程度」のものである(船所2011:88)。

一方、議論文²⁾は中学校から学習し「意見の論述を主な表現方法とし、客観的な道理に対して分析評論を行う文章の種類である。論説文とも呼ばれる(以议论为主要表达方式对客观事理进行分析评论的文章体裁。也称"论说文")」(荘他編2003:380)³⁾。つまり、双方とも、意見を表明しその正当性を論理的に説明するという点で、同じ種類の文章と言える。

例として、読書の大切さについて書かれた小論文(例(1))と議論文(例(2))の第一段落を示した。①、②などは文番号を表わし、例文末尾の英数字は稿末資料の資料番号に対応する。ただし、テーマを共通にするため議論文については研究対象以外の作文から引用した。以下、中国語の引用は、紙幅の関係上、邦訳のみを示す。

- (1)①何のために読書をするのか。
 - ②読書の意義とは、自分の中で知識 を増やし、考えや自分の世界を広げ ていく楽しみにあると、私は思う。
 - ③それがあまり役に立つことのない 雑学から出発したものであってもで ある。
 - ④だから、興味のある本ならジャンルを問わずに読むようにしている。(st6)
- (2) ①もしご飯を食べることや、寝るということが人が生きる上で必ず備えなければならない要素だというならば、読書とは成長に欠くことが出来ない、精神の糧であるのだ。
 - ②回らない舌で片言を話す子供から、 すらりとして美しい女性になるまで、 読書はずっと私と一緒であった。
 - ③『水滸伝』の中の今にも動き出しそうな108人の英雄豪傑から『紅楼夢』の細やかで真に迫った宝玉と黛玉に至るまで、『神なる狼』の中の人を深く感動させる人間と狼の交流から『最後の銃弾を私に取っておいてくれ』の洒脱さと勇敢さに至るまで。
 - ④青春の読書はあなたを未知の世界に連れていくが、ここには正もあれば邪もあり、善もあれば悪もあり、美しさもあれば醜さもあり、ここであなたは人情の冷たさや温かさを体験し、時代の変遷を味わい、人間の正しさと悪さを識別し、すばらしい新たな文章を追求することができる。

(作品名「唯有书华, 秀于百卉(書物の 花があるだけで百の花に勝る)」)

例(1)の小論文では、文①の問題提起に対して、文②、文③で意見が述べられ、文 ④で補足説明として事実が述べられてい る。例(2)の議論文では、文①で一般的な意見が述べられ、文②、文③で著者の経験が示され、文④でそれらを踏まえて著者自身の見解が述べられている。

例(1)の小論文では問題提起とそれに対する意見との関係が明確で叙述は簡潔である。一方、例(2)の議論文は、意見に対し多くの事実を挙げ、文②で示されているように、「回らない舌で片言を話す」(咿呀学语)、「すらりとして」(亭亭玉立)のような成語を用いた対句的表現や、文③における古典小説『水滸伝』・『紅楼夢』から現代小説『神なる狼』・『最後の銃弾を私に取っておいてくれ』までの実例の列挙というような表現方法を用い、類似した内容の叙述を積み重ねていく展開になっている。

3. 資料と分析方法

3.1 資料

資料は規範的な文章として広く普及しているものとして、小論文は国語教科書、議論文は「満点作文」を対象とする。具体的には、小論文は2000年以降発行の高等学校国語教科書に掲載されたモデル作文から採集した。意見を論述する小論文の出題形式には「テーマ型」「課題文読解型」⁴「図表分析型」がある(島田2014)が、本稿ではテーマ型9編、課題文読解型8編の合計17編を対象とした⁵⁾。

中国の議論文については、教科書に十分な数のモデル作文が掲載されていないため、日本の大学入試センター試験に相当する「普通高等学校招生全国統一考試」(通称「高考」)において実際に学生が書いて満点もしくはそれに近い高得点をとった作文、通称「満点作文」を対象とし

た。中国では日本の文部科学省に相当する教育部が公布した「普通高等学校招生全国統一考試大綱」に基づき、高考が実施される。つまり、満点作文は単に評価の高い作文として高考を受験する学生の間に普及しているだけでなく、中国の教育部が示す目標に適った作文と言える。そこで、満点作文の中から同一の課題に対し5編の作文を収集できたもの計20編を対象とした。なお、中国では出題形式が日本の小論文とは異なり、与えられた文章を読んで受験者自身がテーマを設定する形式が主流であるため、両者は必ずしも均質ではない。

3.2 分析方法

分析の方法として、樺島(1983)において図示されたツリー構造を用い、意見と論拠の関係を中心として文章一編ごとの構造の特徴を把握し、さらに論拠の内容を分析することで、小論文・議論文それぞれの特徴を明らかにする。

3.2.1 樺島 (1983) のツリー構造

構島(1983:118)は文章を「ある意図によって書かれた、まとまった言語作品」と規定し、機械処理による文章作成を想定し、構成原理から生成的に文章を作成する方法として、様々な要素が階層的構造を成すツリー構造⁶⁾を示した。

分析方法としてこのツリー構造を用いる理由は、一つの文が一つの要素に対応するだけでなく、それらの要素が組み合わされた文のまとまりが、他の文や文のまとまりとの関係で、ある特定の要素として機能するという、階層的な構造を分析する上で優れているからである。

図1は樺島(1983:138)が意見文を述

べるときに役立つ構造として例示したものである。まず、「文章」から枝分かれした「導入(序論)」「意見の陳述」「結び」は、構成上の原理に基づく分類である。そして、「問題提起」「意見の陳述」は内容に重きを置いた分類となる。その下の下位分類の同一名称は核心的部分を指し、それ以外のものは補足的部分となる。

例えば、図1では「意見の陳述」「証明 (論証)」「説明」からなるひとまとまりの 要素がさらに「意見の陳述」と名付けられている。これは樺島の意図を推測するなら、書き手の立場から「意見の陳述」を 書く場合に、「意見の陳述」の核心をなす「意見の陳述」そのものとそれを補足する「証明(論証)」と「説明」によって、ひとまとまりの文章を構成するという事態を表現したものと考えられる。



図1 樺島 (1983:138) が示したツリー 構造 (一部省略)

3.2.2 ツリー構造の認定基準と手順

上述のようなツリー構造を本研究では図2のように修正して用いる。樺島(1983)は書く立場から論述しているので上位の要素は自明とされているが、書かれたものを分析する際には個々の文から再構成しなければならない。そのため、構成原理(導入・本論・結び)を設定した後、個々の文の要素を認定し、そこからそれぞれの形式段落ごとに要素を特定する。本稿で使用する作文は、形式段落が比較的同一基準で意味的なまとまりを持つものとなっている。以降、本稿で言

う段落は形式段落を表す。

また、樺島 (1983) の個々の要素を表1 のように整理し、分析を行う。このうち 「論拠」「予告」「仮定」は筆者が設定したものである。「論拠」については、ある文もしくは文章が論拠であるか否かは「なぜなら」や「因为」(…だから) のような指標によって判断する。それらがない場合、それらの言葉を補うことが可能であるか否かで論拠を認定する。

例として、図2のツリー構造を用い作成方法を簡単に説明する。まず、初めの段落を「導入」、最後の段落を「結び」、その間の複数の段落を「本論」とする。次に、表1に示した要素に基づいて、文ごとに要素の認定を行う。そして、各段落がどれを主要な要素としているかを特定する。最後にこれらの要素を線で結び、ツリー構造を作成する。はじめに、段落相互のレベルで作成し、次に段落内の各文のレベルで作成したものをつなぎ合わせ、全体のツリー構造を完成する。図2では、丸で囲っているものが段落である。

なお、ツリー構造の作成に当たっては 以下のような処理を行う。 a. 論拠の要素は対応する意見の陳述と組

み合わせて上位の意見の陳述を作る。

ただし、本論が導入や結びの意見の陳

述に対する論拠である場合は、この限 りではない。

b.ある要素の結合が、他の意見の陳述に 対する論拠として機能している場合 は、その結合した要素全体を論拠と認 定する(図3~5参照)。



図2 本稿で用いるツリー構造

4. 結果

まず、調査を行った小論文・議論文の ツリー構造の特徴を述べ、続いて論拠の 内容について述べる。

4.1 ツリー構造の特徴

ッリー構造の考え方からすると、一文が要素として機能するだけではなく、複数の要素が結合したものが上位の要素として機能し、それらの要素や上位の要素が結合して、段落がどの要素であるかを決定している。文章全体の構成を考察する上では、一文一文ではなく、段落が実質的な働きをしていると考えられるので、段落を単位として分析を行う。

はじめに「本論」における各段落がど

	表 上 本	で扱っ要素の定義とその例
要素	定 義	例
意見の	書き手が自身の立場や主張、意見を述	相手への配慮が最も重要であると私は考える。(st3)
陳述	べること。	
論拠	意見の陳述が正当である理由を示す	なぜなら漫画は小さなころからぼくらのいちばん身近にあり、そ
imf火	こと。	の影響力は絶大なものだったからだ。(st1)
事実の	出来事やものごとを客観的に述べる	コミュニケーションの手段には対面して話すことのほかに、電話
報告	こと。	や手紙、電子メールなどもある。(st3)
説明	意見の陳述、論拠に解説の叙述を加え	例えば、私の近所でも、以前は原っぱだった土地が、今では駐車場
动化中门	ること。	や宅地に変わっている。(sr3)
問題	文章における問題意識を示すこと。	はたして私たちは農薬に頼らない農業を選択すべきなのであろう
提起		か。(sr6)
予告	話題内容や方向づけを示すこと。	一つの漫画を例にとって考えてみたいと思う。(stl)
仮定	事実に基づかない予想や想定のこと。	仮に、法律がない社会を想定してみる。(st7)

の要素で占められているかを述べ、次に 実際のツリー構造の形態的な特徴を述べ る。表2、表3は、小論文と議論文それぞ れの「本論」に含まれる段落と要素の内 訳を示したものである。意見の陳述、論 拠、その他(事実の報告、説明、問題提起) の各項目はそれぞれの要素に該当する段 落の数を示し、最も多くを占める要素に 網掛けをし、同数の場合は無表示とした。 複数の段落がまとまって一つの論拠とし て機能している場合、それらの段落は全 て論拠として算定する。

まず、それぞれの作文でどの要素が最多であるかを見てみると、小論文では意見の陳述が最多であるものが2編、論拠であるものが12編、意見の陳述と論拠が同数であるものが3編であった。議論文では、20編中19編で意見の陳述が本論の段落の中で最多を占めている。

次に、ツリー構造から階層分化の構造 を見ることで、小論文と議論文の文章構 成の特徴を明らかにする。小論文は異な る要素が組み合わされて論拠となるな ど、ツリーを構成する階層が多層化する傾向があり、議論文に比べるとツリー構造の形態は複雑化する。ここでの「多層化」とは、ツリー構造において個々の文から文章全体に至る複数要素の結合の段階が多くなること意味する。一方、議論文は、多数の意見の陳述がそれぞれに論拠を伴って並列される傾向があり、ツリー構造の形態は単純となる。

図3はテーマ型小論文、図4は課題文 読解型の小論文、図5は議論文のツリー 構造の例である。

図3では、導入での問題提起と意見の 陳述に対し、本論の段落は事実の報告と 論拠から構成され、この二つが全体とし て導入における意見の陳述の論拠となっ ている。図4では、導入で問題提起がな され、本論で意見の陳述が行われている。

図3、図4のいずれにおいても複数の 要素が組み合わされて論拠となり、論拠 が多層化していることが示されている。

一方、議論文は、図5のように、意見の 陳述が列挙され、それぞれに論拠が付さ

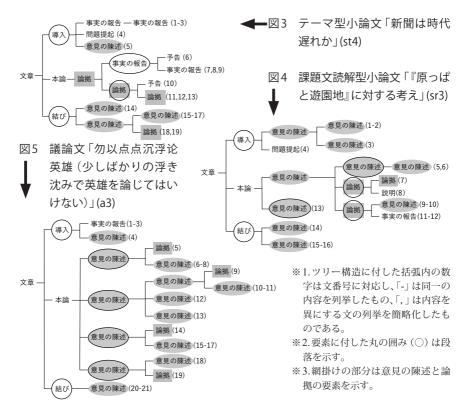
					衣	_ /	川,明	1X	ノ权	冷	_女	糸						
	資料番号	st1	st2	st3	st4	st5	st6	st7	st8	st9	sr1	sr2	sr3	sr4	sr5	sr6	sr7	sr8
段落数 (平均5.1)		6	6	6	4	5	3	5	6	4	4	5	6	6	3	6	5	7
	段落数	4	4	4	2	3	1	3	4	2	2	3	4	4	1	4	3	5
本	意見の陳述	2	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	2	4	0	1	0	4
論	論拠	2	4	3	1	3	1	3	3	2	1	2	2	0	1	3	3	0
	その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
本	本文の文の数 (平均17)		17	17	19	13	18	20	15	11	14	17	16	17	15	18	15	14

表2 小論文の段落と要素

※資料番号のstはテーマ型小論文、srは課題文読解型小論文を示す。

表3 議論文の段落と要素

						_				-				-							
資料番号		a1	a2	a3	a4	a5	a6	a7	a8	a9	a10	a11	a12	a13	a14	a15	a16	a17	a18	a19	a20
段落数 (平均9.6)		8	8	6	7	6	7	7	8	5	10	7	10	10	6	12	8	7	6	7	7
_	段落数	6	6	4	5	4	5	5	6	3	8	5	8	8	4	10	6	5	4	5	5
本	意見の陳述	5	6	4	5	4	5	5	4	3	7	3	6	7	3	6	2	5	3	5	4
論	論拠	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2	0	1	0	4	4	0	1	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1
本文の文の数 (平均25)		29	30	21	25	21	31	21	20	25	32	22	26	21	29	30	21	23	23	24	26



れるという構造になる傾向がある。

4.2 本論における論拠の内容

小論文、議論文における論拠の内容を まとめたものが表4、表5である。今回分析した資料の範囲では論拠の内容には、 史実、現在の出来事、名言・箴言の三つ の種類があった。

史実とは歴史上の出来事、現在とは最 近起こった出来事や一般的な事柄を指す。 名言・箴言とは偉人・有名人が述べた言 葉や周知の慣用句のことである。なお、古 典小説のストーリーは史実に含めた。

表4、表5の「史実」「現在の出来事」「名言・箴言」の各項目にある○は同一内容

の意見の陳述に対し該当する論拠が一つあることを示す。◎は同一内容の意見の陳述に対し論拠が複数あることを示す。「共通性」の欄の○は単一の種類の複数の論拠が相互に類似していることを、●は異なる種類の複数の論拠が相互に類似していることを示す。×は複数の論拠それぞれの趣旨が異なることを示す。

例えば、表5のa14の場合は、「現在の出来事」に複数の論拠があり相互に類似していることを示す。a2の場合、3種類の論拠それぞれに該当する論拠が複数あり相互に類似していることを示す。

例(3)の文⑤・⑥が現在の出来事の例、 文⑨・⑩は史実の例である。試験の点数 が人生の全てではないという意見に対し、学業成績が悪くても後に学問で大成した人物のエピソードを通し、類似した趣旨の論拠(史実)を文⑨、⑩で繰り返しているので●に該当する。

- (3) ⑤では、ジョン・ガードン (2012年 度ノーベル生理学・医学賞受賞) は どうであろうか。
 - ⑥彼は15歳で有名な貴族学校である イートン・カレッジで勉学にいそし んでいた時、250人の学生の中で、生 物科の学業は最下位であり、他の科学 関連科目も比較的目立たず、級友たち にからかわれ馬鹿にされていた。
 - ⑨では、シャルル・エルミートはどうか。
 - ⑩彼は19世紀の最も偉大な代数幾何 学の学者であるが、5回も大学入試を 受けた。毎回の失敗の原因はすべて 数学のテストが良くなかったからで、 大学卒業もギリギリであった。(a1)

例(4)は図3で取り上げた文章の一部であり、現在のことを論拠にしている。新聞は時代遅れではないという意見に対し、文①、②、③で異なる視点から論拠が述べられており、複数の論拠それぞれの内容が異なるので×に該当する。

- (4) ①例えば、瞬時にかき消えていくラジオ・テレビや、不断に更新されるインターネットの情報と比べて、紙に印刷された新聞は物としての確かさをもっており、記録・保存に利点がある。 ②また、長い論説文などをじっくり考えながら読めるのも印刷メディアとしての新聞のメリットだ。
 - ⑬そして、大きな紙面で世界のでき ごとを一覧できるのは新聞ならでは の特色である。(st4)

例(5)は、名言・箴言の例である。

(5) ⑧カリール・ジブランは「父は弓であり、子供は矢であり、弓は矢をもっと遠くに射るために、腰を曲げに曲げる。」と述べている。(a2)

小論文では、論拠は全て現在のことであり、全17編中13編が異なる観点の複数の論拠を用いている。一方、議論文では20編のうち現在の出来事だけを論拠とするのは4編であり、その他は史実や名言・箴言を論拠としている。表5の「共通性」の項目に●が付いていることから、いずれの論拠を用いるにしても同じ趣旨を繰り返す傾向が強いことがわかる。

表4 /	論文の	内容
------	-----	----

資料番号	st1	st2	st3	st4	st5	st6	st7	st8	st9	sr1	sr2	sr3	sr4	sr5	sr6	sr7	sr8
史実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
現在の出来事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
名言・箴言	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
共通性	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0	×	×	×	×	×	×	×

表5 議論文の内容

資料番号	a1	a2	a3	a4	a5	a6	a7	a8	a9	a10	a11	a12	a13	a14	a15	a16	a17	a18	a19	a20	
史実	0	0	-	-	-	-	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	
現在の出来事	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	
名言・箴言	0	0	0	0	-	-	0	0	-	-	0	-	-	-	0	-	0	-	-	-	
共通性	•	•	•	•	0	0	•	•	•	•	•	•	0	0	•	•	•	•	0	0	

5. 考察

小論文17編を調べた結果、本論における段落が論拠で占められる場合が多く、ツリー構造が多層化する傾向が見られる。また、論拠の内容は現在の出来事が用いられ、複数の異なる視点が提示される傾向があると言える。これは、小論文では一般的な事柄をもとにしたさまざまな論拠を出し、論点の見落としを防ぐことで説得力を高めることを目指していると考えられる。このことは、一つの事象に対し書き手が意見を述べるに当たり、書き手とは異なる意見に配慮することが重要視されているとも考えられる。

議論文20編を調べた結果、段落ごとに 意見の陳述とともに論拠が繰り返される という構成になる場合が多い。論拠とし ては現在の出来事のほかに史実や名言・ 箴言が用いられ、同じ趣旨の論拠が列挙 される傾向があると言える。論拠の内容 から見ると、議論文では論理的に納得さ せるというより、事例や引用を数多く用 い、複数回にわたって意見を提示するこ とで、読み手に意見を印象付け、特定の 方向に誘導することを目指しているよう に見える。また、中実や名言・箴言の多用 は知識や学力の判断基準としての意味を 持っていると推測される。さらに名言・ 箴言は書き手以外の社会的権威のある第 三者の意見ともとらえることができる。 なお、そのような論拠の用い方は小論文 では見られず、議論文にのみ見られる。

6. まとめ

以上の結果により、小論文と議論文の 特徴は表6のようにまとめられる。 小論文は多種の要素が相互に組み合わされ、ツリー構造が多層化する傾向が強い。論拠には現在の出来事が用いられ、異なる複数の論拠が述べられている。これは新学習指導要領(文部科学省2019)で、「多面的・多角的な視点」による主張の明確化という方針を示していることに符合するものと言える。

議論文は、意見の陳述が列挙され、ツリー構造はあまり多層化しない。小論文と比較すると論拠に史実、名言・箴言が多用され、同一の趣旨が繰り返される傾向がある。

表6 小論文・議論文のまとめ

	小論文		議論文
ツリ	多層化傾向強い	₽	⇒多層化傾向弱い
横造	論拠が本論の 中心を占める	⊹	☆ 複数の意見の 陳述の並列
論拠	現在の出来事	⊹	
拠	複数の異なる 趣旨のものの使用	⊹	♪類似したものの 繰り返し

両者は意見を論述する課題作文であってもその構成や論拠のあり方はかなり異なっている。ただし、本研究の資料とした文章は長さが異なっているため、その影響については今後の研究課題である。

冒頭に触れた先行研究は、各文化圏での作文の書き方とそれぞれの思考法との結びつきを示している。そのため、本研究の成果をふまえれば、中国で母語教育を受けた中国人日本語学習者が日本の小論文を書く場合、中国の議論文のようなものを書くことも予想される。今後は、このような問題についても、検証を進めていきたい。

注

1) 中国の議論文では、論拠(论点的根据)

を「書き手が自らの見地を確立した理由(作者建立自己观点的理由)」(荘他編2003:239)としている。

- 2)「議論文」は中国の"议论文"の直訳である。中国では議論文は学校教育で学ぶ作文の一種であり学年に応じ段階的に学習される(中華人民共和国教育部2012)。
- 3) 以下、中国語から日本語への翻訳はすべて筆者による。日本語能力が超上級の中国語母語の大学院生にも訳文の確認と本研究の分析の認定をしてもらっている。
- 4)島田 (2014)では課題文読解型を I と II に分けているが、課題文読解型 II は 課題文の要約を求めるものであるため、本稿では扱わず、課題文読解型 I を単に課題文読解型と記述した。
- 5) 今回の研究では2000年から2018年 までに発行された。古典教科を除く全 ての国語教科書(215冊)を対象に小 論文のモデル作文の掲載を調べた。そ の結果、テーマ型10編、課題文読解型 9編、図表分析型小論文7編が掲載さ れていた。そのうち使用許可が得られ なかったものがテーマ型で1編、課題 文読解型で1編あった。また、図表分析 型小論文は図表の読み取りを主として おり、今回の研究目的とは異なるため 対象から外した。なお、モデル作文に 対応した課題文が記されず、モデル作 文としての小論文だけが掲載されてい るものもあったが、文章を読解した後 に小論文を書くという趣旨ではないた め、テーマ型小論文に含めた。
- 6) 樺島 (1979) では「トリー構造」、樺島 (1983) では「トリー」と呼んでいるが、

本稿では一般的な表記と思われる「ツリー構造」を使用する。

参考文献

- 樺島忠夫(1979)『日本語のスタイルブック』大修館書店
- 樺島忠夫(1983)「文章構造」水谷静夫 (編)『朝倉日本語新講座5運用Ⅰ』朝 倉書店,118-157.
- 島田康行(2014)「高校・大学の双方で育てたい「書く力」」東北大学高等教育開発推進センター編『「書く力」を伸ばす一高大接続における取組みと課題一』東北大学出版会、7-35.
- 船所武志(2011)「論説文」中村明他編『日本語文章・文体・表現事典』朝倉書店.88.
- 文部科学省(2010)『高等学校学習指導要 領解説 国語編』教育出版
- 文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』東洋館出版社
- 渡辺雅子(2004)『納得の構造―日米初等 教育に見る思考表現のスタイル―』東 洋館出版社
- Kaplan, Robert B. (1966). Cultural Thought Patterns in Inter-cultural Education. *Language Learning* vol.16 nos.1-2,1-20.
- 中華人民共和国教育部『義務教育 語文課程標準(2011年版)』(2012)北京師範大学出版社
- 荘涛他編(2003)『写作大辞典』漢語大詞 典出版社

【付記】

本稿は2018年10月27日第147回表

現学会東京例会での発表「日本の『意見 様、査読の諸先生、中国語の読解でお世 文』と中国の『議論文』の文章構造と事 実を表わす文の特徴しを改稿しまとめた ものである。例会でご教示くださった皆

話になった筑波大学大学院生の杜暁傑さ んに深く感謝申し上げます。

(筑波大学大学院生)

研究資料

小論文

資料番号	題名	発行年	教科書名	出版社
st1	漫画につくられた想像力と固定観念	2003	国語表現 I	教育出版
st2	インターネット社会における新聞の意義		国語表現 I 改訂版	教育出版
st3	上手なコミュニケーションのために必要なこと	2008	現代文	数研出版
st4	新聞は時代遅れか		新編国語総合	教育出版
st5	 ☆「文化祭のクラスの参加の出し物」に対する考え	2018	精選現代文B 新訂版	大修館書店
st6	☆「読書の意義」に対する考え	2018	高等学校 改訂版 国語表現	第一学習社
st7	法律	2018	国語表現 改訂版	大修館書店
st8	インスタント食品と「おふくろの味」	2018	国語表現 改訂版	教育出版
st9	学校の昼食は弁当と給食のどちらがよいか	2018	国語表現 改訂版	大修館書店
sr1	☆「日本の教育のあり方」に対する考え		高等学校国語表現Ⅱ	第一学習社
sr2	☆「メディアは何を変えるのか?」に対する考え	2008	精選現代文	東京書籍
sr3	☆『原っぱと遊園地』に対する考え	2014	現代文B	数研出版
sr4	☆「エネルギー危機は起こらない」に対する考え	2014	国語表現	教育出版
sr5	☆「自由な生き方」に対する考え	2018	高等学校 改訂版 国語表現	第一学習社
sr6	☆『食べてはいけない!』に対する考え	2018	国語表現 改訂版	教育出版
sr7	言語と文化の多様性を		国語表現 改訂版	大修館書店
sr8	☆「ウサギに「訴える権利はあるか」に対する考え	2018	国語表現 改訂版	教育出版

※資料番号の「st」はテーマ型、「sr」は課題文読解型を指す。☆のついている資料は題名が記載されな かったものに対し、課題文の一部を付したものである。

議論文

רוווח אבח	`			
資料番号	題名	発行年	書名	出版社
a1	分数=一切?	2016	最新5年高考満分作文一本全	江蘇人民出版社
a2	怎一个"分"字了得		最新5年高考満分作文一本全	江蘇人民出版社
a3	勿以点点沉浮论英雄		最新五年高考満分作文	四川大学出版社
a4	起伏的波浪才更具力量		最新五年高考満分作文	四川大学出版社
a5	"唯分数论"之殇		最新五年高考満分作文	四川大学出版社
a6	天真一点有何妨	2017	最新五年高考満分作文	民主与建設出版社
a7	狂童之狂也且		最新5年高考満分作文一本全	江蘇人民出版社
a8	终将逝去的青春		最新五年高考満分作文	四川大学出版社
a9	向朽而生	2016	最新5年高考満分作文大典	湖南少年儿童出版社
a10	青春就像东逝水	2016	最新5年高考満分作文大典	湖南少年儿童出版社
a11	时刻准备着	2016	最新5年高考満分作文一本全	江蘇人民出版社
a12	文化行囊		最新五年高考満分作文	四川大学出版社
a13	享文化之繁华		最新五年高考満分作文	四川大学出版社
a14	我的行囊	2016	2016年高考満分作文特輯	華語教学出版社
a15	准备好, 让我们去旅行		2016年高考満分作文特輯	華語教学出版社
a16	李纨的智慧人生	2016	最新五年高考満分作文	四川大学出版社
a17	亭亭自风流		制勝宝典・高考満分作文真巻補導大全	湖南教育出版社
	迟钝也是一种智慧		2012-2016年最新五年高考満分作文	河北科学技術出版社
a19	自渡的智慧		最新5年高考満分高分新作文	陝西師範大学出版総社
a20	生活智慧的城市景象	2016	最新5年高考満分高分新作文	陝西師範大学出版総社
	·		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

※資料番号の「a1-a5」、「a6-a10」、「a11-a15」、「a16-a20」は同一課題である。

引用資料

「唯有书华, 秀于百卉」『最新5年高考満分作文一本全』(2016) 江蘇人民出版社